

第12回独立行政法人農林漁業信用基金農業保険関係業務運営委員会 議事概要

1 日時及び場所

- (1) 日時 令和3年9月21日(火) 15時15分～16時45分
- (2) 場所 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー28階
農林漁業信用基金 大会議室

2 出席者

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、運営委員会の委員長以外の委員はウェブ会議形式での参加であった。

- (1) 運営委員
出資者：池田委員、澤井委員、砂場委員、成川委員、村井委員
学識経験者：川口谷委員、篠崎委員、津滝委員、松村委員、水上委員
(出資者・学識経験者別 五十音順)
- (2) 信用基金
今井理事長、森島副理事長、深水総括理事、北村理事、小林理事
- (3) オブザーバー(主務省)
谷農林水産省経営局保険監理官

3 提出議案

- (1) 報告事項
 - ① 令和2年度の業務の実績に関する評価について
 - ② 令和2年度の決算について
- (2) 情報提供事項
農業共済事業の動向と今後の貸付けの見通しについて
- (3) その他

4 議事経過の概要及びその結果

信用基金から上記3(1)の事項に沿って報告がなされた。

また、信用基金から上記3(2)に沿って情報提供がなされ、その後、農業共済団体の財務面の特徴的な動き、最近の被害状況及び直近の現場の状況等情報提供がなされた。運営委員からの主な発言等は以下のとおり。

(カッコ内はこれに対する信用基金の説明)。

- (1) 報告事項
 - ① 3の(1)の①の「令和2年度の業務の実績に関する評価について」
項目別評価総括表において、元年度は主務大臣の評価と自己評価に乖離がでている表記となっているが、2年度は自己評価の記載がない。これは主務大臣の評価と自己評価に差がなかったためか。
(2年度は自己評価と主務大臣の評価に差がなかったことから、元年度の表記と異なっている。)
 - ② 3の(1)の②の「令和2年度の決算について」
2年度の人件費が997千円減となっているが、この背景は何か。
(信用基金に5業務あるが、各業務の人件費の配分比率が若干変わったことによるもの。)
- (2) 情報提供事項
 - ① 3の(2)の「農業共済事業の動向と今後の貸付けの見通しについて」
ア 本組合では、台風等の通常の災害とは異なる南海トラフ等大規模災害の発生に備えたり

スクを試算している。このようなリスクと信用基金が想定しているリスクの間に乖離が生じているのではないかと懸念される。今後の貸付見通しについては、このような観点で農業共済団体と意見交換する場を設けてはどうか。

(農業保険関係業務の短期借入金の借入枠は782億円であることから、一時的に不足した資金に対する対応は可能である。一方、当勘定は収支改善の観点から資金を運用する額と手元に置く額の配分を見直すことができないかと考えたもの。短期的には5億円分資金を手元資金として置かずには有価証券運用が可能なのではないかと考えている。南海トラフ等大規模災害対応リスクについては、主務省とも適切に情報交換を行いながら進めていかなければならないと考えている。)

イ 当組合は、この20年で6割近くの組合員が減少した。また、積立金についても減少傾向にあり、数年後には各勘定とも繰越不足金が発生することが予想される。天候異変については、なかなか見えない部分があるが、今後の積立金の動向も含め様々な角度から情報分析を進めていただきたい。

(制度全体の状況をよく見ながら考える必要があるご指摘と受け止め、主務省とも相談しながら、今後の在り方について考えていきたい。)

ウ 有価証券運用に関し、信用基金では専門家会議など外部の意見を聞く仕組みはあるのか。(有価証券運用に関し、外部の意見を聞く専門家会議はないが、日々の債券時価の確認や随時の格付確認を行っており、内規で格付が一定の基準を下回った場合の取扱い等を決め対応している。)

② 委員からの現況報告

ア 出資者委員から、事務費補助金が年々減少傾向にあること、共済部長(農家)の推進の役割が個人情報保護の関係から制限された結果として加入が減少したこと、収入保険の加入が前年度に比べ6割程度増加したこと、農業共済団体の機構の改善を行う時期にきており上部団体で至急対応を検討いただきたいこと等が報告された。

イ 学識経験者委員から、干ばつによる飼料作物の減少に伴う飼料価格の高騰やヨーネ病の蔓延による酪農経営への影響、野菜の需要減退による廃棄、大雨の影響による出荷量減少等により経営への影響が大きいこと、米価の下落による収入保険への期待、外国人研修生の入国ができず、労働力不足により業務等縮小せざるを得ない状況であること等が報告された。

以上